

<H9-4-A：問題>

次の文は、標準的な公共測量作業規程に基づいて実施する平板測量における留意点について述べたものである。間違っているものはどれか。次の中から選べ。

1. 致心については、地上点とそれに対応する平板上の点を図の縮約によって定まる許容範囲内に位置づける。
2. 定位についてはなるべく遠い基準点を視準する。
3. 整置においては、アリダードの水準器を用いて平板の上面を水平にする。
4. アリダードを使用する場合は、水準器軸が定規の底面に垂直であることを事前に点検調整する。
5. アリダードを使用する場合は、両視準板が定規の底面に直交であることを事前に点検調整する。

<H9-4-B：問題>

縮尺 1/500 地形図を作成するための平板測量において、アリダード及び巻尺を用いて傾斜が一様な土地の 2 地点間の傾斜角及び斜距離を測定したところ、傾斜角の分画は -10.0 分画、斜距離は 36.00m であった。この 2 地点間の水平距離はいくらか。最も近いものを次の中から選べ。

ただし、 $\sqrt{1.01}=1.005$ とする。なお、関数の数値が必要な場合は、巻末の関数表を使用すること。

1. 35.4m 2. 35.6m 3. 35.8m 4. 36.0m 5. 36.2m

<H9-4-C : 問題>

次の文は、標準的な公共測量作業規程に基づいて実施するトータルステーションやGPS測量機を用いた地形測量について述べたものである。間違っているものはどれか。次の中から選べ。

1. 平板測量に必要な基準点は、トータルステーションやGPS測量機を用いて設置することができる。
2. トータルステーションを用いて地形・地物を測定する場合は、放射法を用いることができない。
3. トータルステーションを用いた地形測量では、現地で地形・地物を測定して、数値データを取得することができる。
4. トータルステーションを用いる場合は、視準する目標物との視通が必要である。
5. GPS測量機を用いる場合は、衛星からの電波を確実に受信するため、上空視界を確保しなければならない。

<H9-4-D : 問題>

次の文は、標準的な公共測量作業規程に基づいて実施するデジタルマッピングにおける数値図化及びそれに使用する機器について述べたものである。間違っているものはどれか。次の中から選べ。

1. 座標読取装置付きアナログ図化機では、実体視することなく数値化を行うことができる。
2. 解析図化機では、描画台がなくても数値化を行うことができる。
3. 解析図化機は、X、Y、及びZの座標値を同時に取得することができる。
4. 数値化で得たX、Y、及びZの座標値に分類コードを付加することにより、項目を取捨選択してディスプレイ上に容易に表示できる。
5. 数値図化で取得したX、Y、及びZの座標値並びに分類コードは、電子記憶媒体に格納できる。